

5G通信

Vol.37

日本で5Gが本格的にスタート

2020年3月下旬、NTTドコモなど国内携帯大手3社が相次いで5Gの商用サービスを開始。米国や韓国、中国、欧州に続き、日本でも5Gが本格稼働。

日本でも号砲が鳴った「5G」を巡る競争

- 2020年3月25日のNTTドコモを皮切りに、KDDIが26日、ソフトバンクは27日に5G（第5世代移動通信システム）の個人向けサービスを開始しました。楽天モバイルも6月頃からサービスを開始する予定で、今後国内で顧客獲得を巡る競争が本格化します。
- 大手3社とも5Gサービス開始に併せてシャープやサムスン電子など国内外メーカーの5G対応スマートフォンを発売し、料金プランはほぼ横並びとなる中、今後の競争軸は、多様なサービスと使用できるエリアの広さになるといわれています。
- NTTドコモは消費者向けに加え法人向けサービスも展開し、KDDIやソフトバンクも消費者向けに独自のコンテンツを売り物にするなど、3社とも違った戦略を打ち出しています。

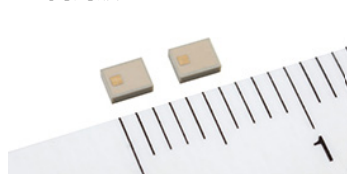


通信電波のカバーエリアや技術に対する課題を克服するための動きが進む

- 5Gが使用する高周波帯域は電波を使える範囲が狭いという技術的な問題があり、当面のサービス展開は3社とも限られた地域での使用にとどまり、全国で使えるようになるのは21年末以降になる見込みです。こうした技術的な問題を見据えて、総務省は20年夏にも、既存の電波を5G向けに転用できるよう制度を変える見通しです。既存の電波を使えるようになれば、一気に既存基地局を使ってエリアの拡大が可能になります。
- また、高周波の電波に対応する高機能基盤や半導体の新材料など5G向けに特化した製品を相次ぎ開発、発売する企業が増えています。足元、新型コロナウイルス感染拡大の影響による経済活動の停滞で、電子機器や半導体の需要の低迷が懸念されるなか、市場の成長期待が大きい5G関連機器の需要を模索する動きもあります。
- 2020年は世界的に5Gサービスの浸透が進むことから、5G関連企業間の連携は一層深化し、ステータスは「準備段階」から「離陸期」に移行すると思われます。
- 5Gの進展で創出される新たなイノベーションは、経済成長の礎となって関連産業に大きな需要を生み出し、中長期的な恩恵の享受が期待されます。

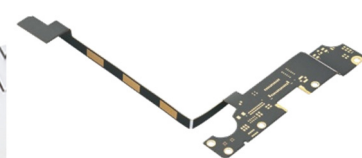
5G市場をにらんだ製品開発(例)

高周波フィルタ



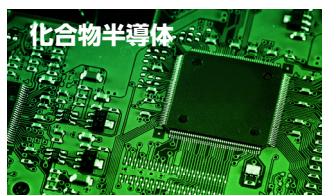
通信環境に応じて必要な周波数を選別

メトロサーク



端末の形状に合わせて折り曲げ可能

化合物半導体



耐熱性と省電力に優れた半導体

石英クロス



高機能プリント基板材料

(出所) TDK (高周波フィルタ)、村田製作所 (メトロサーク)、信越化学工業 (石英クロス)
※写真はイメージです。



【 ご留意事項 】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。